

郷土の民族資料

民俗資料ならびに考古学資料

調査の協力依頼について

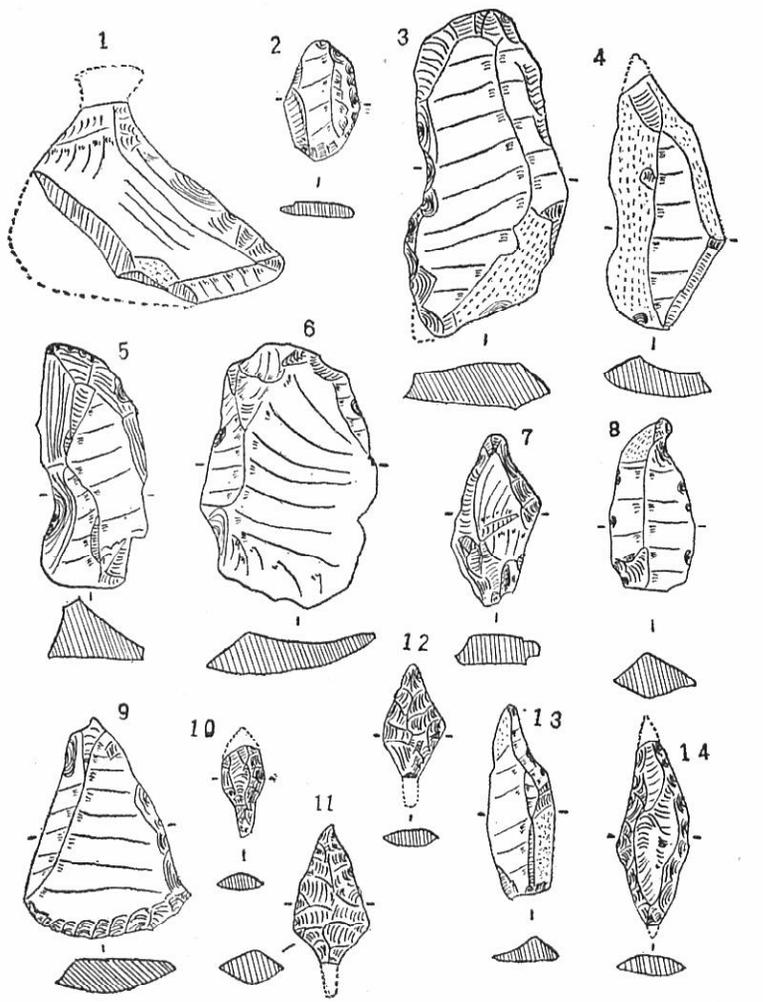
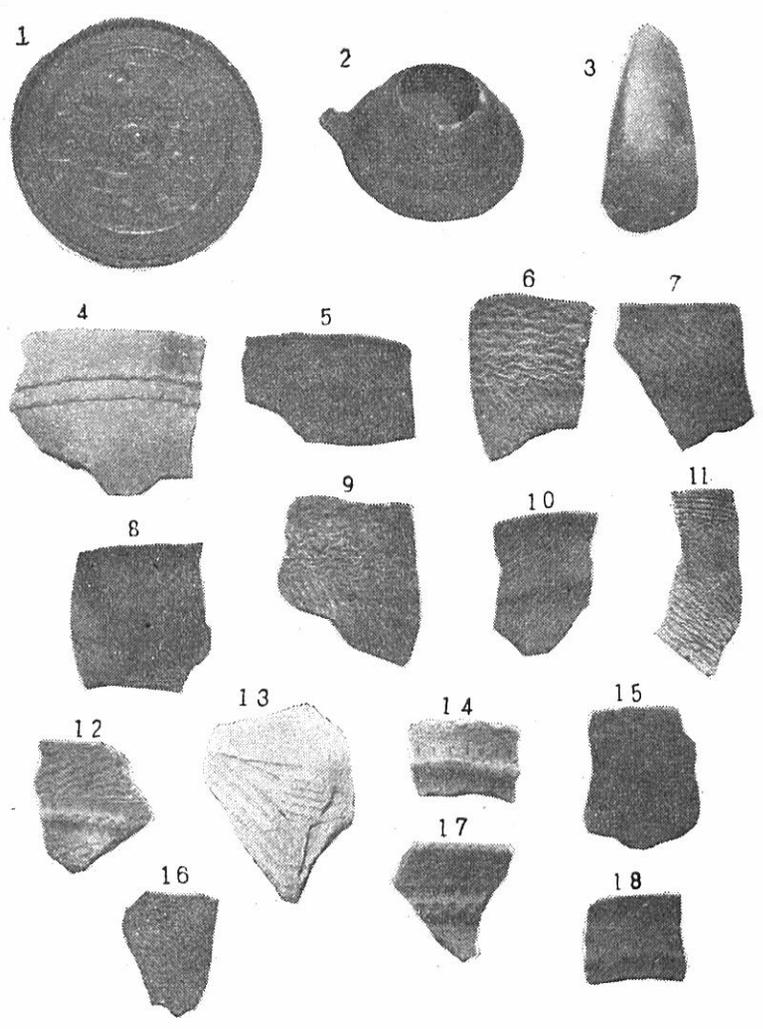
◎民俗資料について

昭和二十九年の文化財保護法の一部改正によって、民俗資料の保護が推進されてきたが、すでに十数年を経過したが、この間、重要民俗資料の指定、無形の民俗資料の記録作成、緊急調査の実施、収蔵庫の建設等の事業が行なわれ、民俗資料の保護体制がしだいに確立の方向に向かいつつあり、また一般の認識もしだいに高まりつつあることは喜ばしいことである。

しかし、民俗資料の保護は他の部門に比してまだまだ立ち遅れの感は免れず、

また最近における産業、経済の進展、社会構造の変移は、わが国の伝統的な生活様式、風俗習慣を急変させており、有形、無形の民俗資料は急速に失われて行く状況にあります。

このようなときにあたり民俗資料の保護を広く、より徹底させて行くことは極めて緊急であり、重要な課題であると思ひます。民俗資料は、わが固有の国民生活の推移を知り、またよき風俗習慣等を永く伝えて行くうえに欠くことのできないものであり、またそれが必要があると考へるもの日常生括に最も密着した



0 6CM

共同作業等の習俗。

六、信仰に用いられるもの
祭祀具、法会具、奉納物、偶像類、呪術用具、社祠等祭祀、法会、祖霊信仰、田の神信仰、巫座、つきもの等。

七、民俗知識に關して用いられるもの
曆類、卜占用具、医療具、教育施設等、曆数、禁忌、卜占、医療、教育等。

八、民俗芸能、娯楽、遊戯嗜好に用いられるもの
衣裳道具、楽器、面、人形、玩具、舞台等。

九、人の一生に關して用いられるもの
産育用具、冠婚葬祭用具、産屋等、誕生、育児、年祝、婚嫁、葬送、墓制等。

十、年中行事に用いられるもの
正月用具、節句用具、盆用具等、正月、節分、節句、盆等の習俗。

十一、口頭伝承に關するもの
伝記、昔ばなし等。

◎考古資料について

最近、経済産業界の発展にともない、都市計画にもとづく道路の新設、住宅地の造成、その他の公共事業（大規模開発によるパイロット指定事業、圃場整備事業、草地畑造成事業）等により貴重な遺跡や埋蔵されている文化財が破壊される危険にさらされています。

当町もその例にもれず、各種事業により破壊された遺跡は、かなりの数にのぼっています。現在町内では現地を確認し、遺物の表面採集が行なわれたものは三十数ヶ所であるが、この数はほんの一部にすぎなく、今後ますます増えることが予測されます。今年に入ってからすでに四、五ヶ所の遺物包含地が破壊され、僅かに十数程度の遺物を表面採集したにすぎなかったのです。かかる先住民族の貴重な遺跡並びに遺物包含地は基礎的な調査が要求され、連絡先 森吉町教育委員会

そのなかで、資料の集大成が行なわれるものであります。前記民俗資料の項に述べたように考古資料においても、広く町民各位の協力なくしては資料の集大成はおろか遺跡の確認すら出来ない現状です。かかる面からして考古資料についても町民各位の協力をお願いするものであります。特に考古資料については、遺物包含地をみだりに掘り起すことや、遺跡を破壊すること等は文化財保護法により罰せられるから、発見したら直ちに連絡して下さい。

この調査は、森吉町郷土史編纂の一環として、今後継続して町内における各種資料の調査収集を行なうものであり、町民各位の協力を切にお願いするものであります。

なお参考までに遺物の写真および実測図を掲載します。

連絡先 森吉町教育委員会

【説明】
写真 町内遺跡出土遺物

1. 青銅石鏡 (製作年代 鎌倉時代)	出土地 小瀧新兵エ(俗)
2. 注口土器 (縄文晩期 大洞系統)	出土地 浦田字塚(俗)
3. 磨製石斧 (縄文前~中期)	出土地 前田公民館敷地)
4~18 縄文土器短片 (縄文前~中期)	出土地 前田公民館敷地)

石器実測図
1~14 出土地 浦田字塚の俗 後~晩期

出生 おめでとうございます (八月)

婚姻 このよろこびをいつまでも

福田美知子	新木 義明	川曲市
佐藤千恵子	近藤 千恵子	大曲市
松橋カナ子	小泉 由次	駅前
佐藤カナ子	鷺見美代子	北海道
神成 照子	成山 ヤエ子	桂館市
三浦 周二	羽場 マリ子	桐川町
鈴木 茂美	工藤 茂	合川町
吉浦 長春	森川 秋男	新屋布
松浦 長子	高橋 原道子	千葉県
佐藤 忠四郎	湯ノ代 辰雄	惣王内
佐藤 信夫	湯ノ代 辰雄	惣王内
佐藤 由利子	岩手 辰雄	惣王内

死亡 おくやみ申し上げます

武石モヨ	八三	(太郎 母)	本城
川口豊治	三七	(サコ 三男)	大町
奥山義人	〇	(義行 二男)	新町
三浦由五郎	三八	(吉治 父)	根森田
春日ノエ子	三五	(鉄之 妻)	五味堀
三浦トキ	七三	(易則 妻)	平里
斎藤友五郎	五七	(等 父)	小又
斎藤一郎	四六	(トメ 夫)	小又
大川佳子	一	(平左エ門四女)	湯ノ代
菅原信男	二四	(末吉 四男)	駅前

タバコはいつでも町内から買いましたよ

飲むな作るなア おとうさん

ドブロクは飲むな作るなア おとうさん

教育・文化

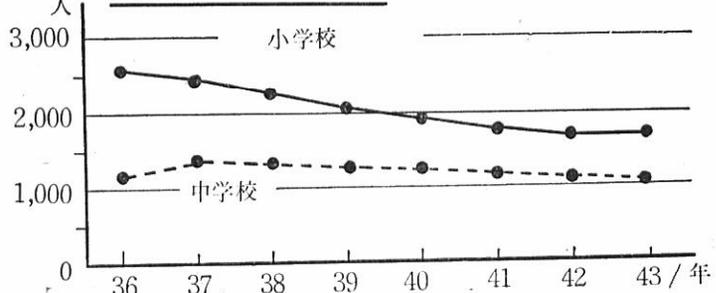
学校概況

(昭和43年5月)

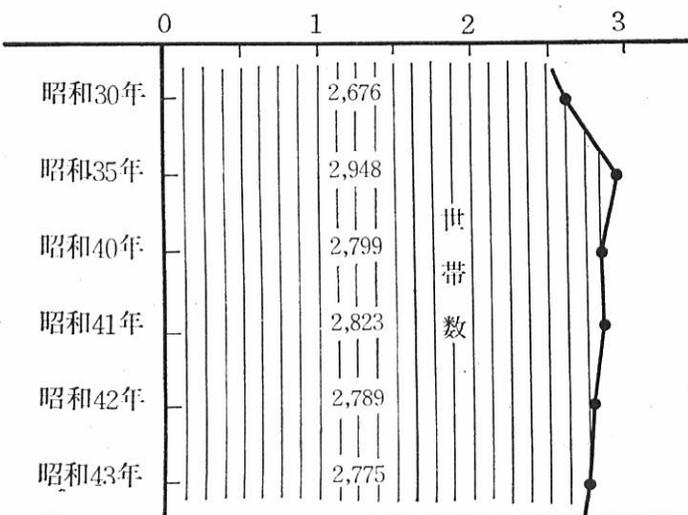
小中学校

学校名	学級数	児童生徒数			職員数
		男	女	計	
米内沢小学校	17	308	296	604	27
浦田小学校	6	63	58	121	10
前田小学校	18	299	310	609	27
森吉小学校	6	62	61	123	9
桐内沢分校	3	21	10	31	4
小滝分校	3	17	9	26	4
湯の岱小学校	3	17	5	22	5
小学校計	56	787	749	1,536	86
米内沢中学校	12	218	233	451	24
前田中学校	12	213	202	415	24
森吉中学校	5	83	61	144	12
中学校計	29	514	496	1,010	60
合計	85	1,301	1,245	2,546	146

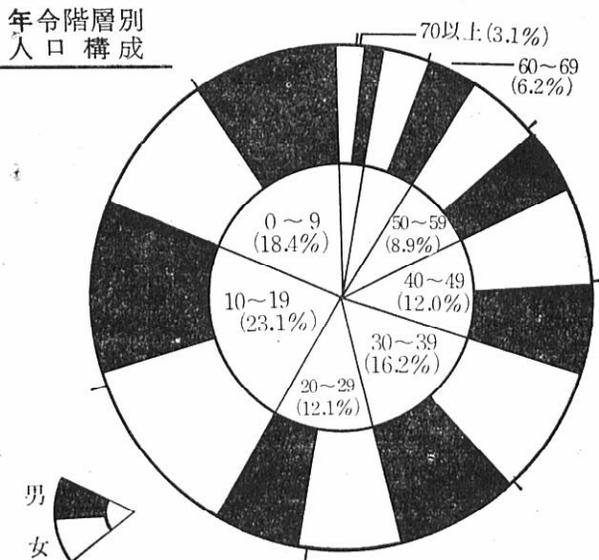
児童生徒数の推移



人口



(昭和40年国調10才きざみ)



県立米内沢高等学校

科名	1年		2年		3年		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
普通科	76	79	66	89	82	72	224	240	464
機械科	48		43		49		140		140
電気科	46		47		45		138		138
家政科		52		51		54		157	157
計	170	131	156	140	176	126	502	397	899

定時制 大野台(農業科)143人 米内沢(普通科)52人
 阿仁分校 (普通科)33人 (家政科)48人
 教員 全日制 46人 定時制 9人
 職員 〃 11人 〃 2人

文化

◎ 著名人

作曲家 成田為三

明治26年 森吉町米内沢に生まれる
 大正3年 秋田師範卒業 毛馬内小学校訓導
 大正4年 東京音楽学校師範科入学
 大正5年 山田耕作に師範「浜辺の歌」作曲
 大正8年 「歌を忘れたカナリヤ」作曲
 「童謡、唱歌集」刊行
 大正11年 ドイツ留学
 昭和2年 結婚、童謡歌集、合唱曲、輪唱曲等を
 発表
 昭和8年 東洋音楽学校講師、音楽理論、合唱曲等を続けて発表
 昭和16年 国立音楽学校教授
 昭和20年 米内沢に疎開 10月29日、郷里にて急逝
 主な曲 浜辺の歌、歌を忘れたカナリヤ、秋田県民歌、童謡唱歌、
 歌曲、合唱曲、輪唱曲など111曲



天保5年 前田庄司家に生まれる
 嘉永元年 久保田で漢学を学ぶ
 安政2年 俳人秋山御風に入門、22才海岸防備のため男鹿に移住
 安政5年 画家平福穂庵を寄ぐうさす
 明治元年 南部境砂子沢に出兵その後俳句に専心、東京、京都等に俳人等を訪ねて旅行し、多くの門人をようして、芭しよ俳句を秋田県内に広めた
 明治38年 72才で没、39年には門人、友人の手によって阿仁前田陣馬岳に句碑が建立された
 主な著作 吟風家集花鳥日記うたかた集、吟風遺響等35編150冊にも及んでいる



昭和43年度

(其の2)

◎教育◎ ◎文化◎ ◎人口

◎ 文化財

「小又峽」

秋田県名勝天然記念物

昭39.4.16指定

「阿仁前田獅子踊」

秋田県無形文化財 (民族芸能)

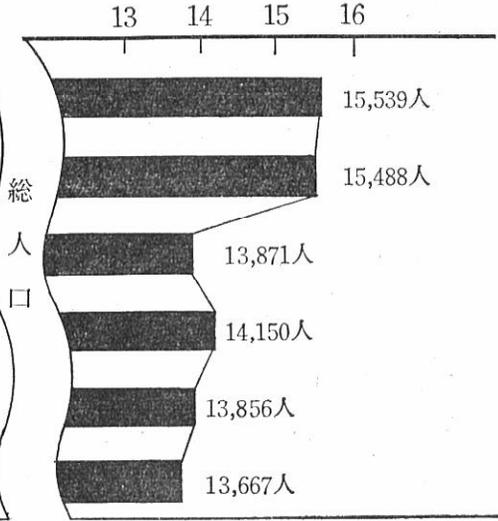
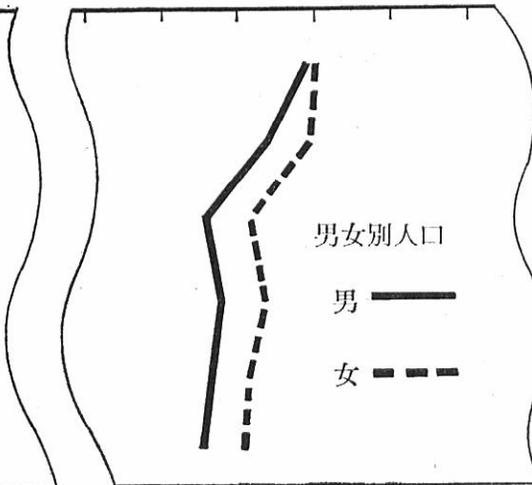
昭39.11.17指定

◎「長野野遺蹟」

連珠状ピット群

縄文前期末門筒形

男女別人口



産業別就業者数

(昭和40年国勢調査 15才以上の就業者)

